

垂れ幕物語 その2 校長 三輪 秀文

垂れ幕づくりは、この乙訓の地で1番になったり、京都府大会や近畿大会のような大きな大会に出場したりした生徒の努力の成果を、全校生徒はもちろん、地域の方にも知ってもらおうということで始めました。

やはり、そういう結果を残すには、並々ならぬ努力があったにちがいません。それに、家族の労を惜しまぬ支えがあったことも事実です。そうした生徒の大きな努力や家族の熱い支えを、多くの人に認めてもらうとともに、仲間や後輩が「よ～し、自分だつて！」と励みのバネにすることを願って、校門付近から見えやすい中校舎の一角を利用することにしました。



もちろん、ホームページもそうです。職員室に届けられた生徒の努力の成果は、できるだけホームページで配信するようにしています。

この前、校長室にお見えになったPTAの会長さんが「ホームページを見たら、男子の駅伝、すごいですね。四中が準優勝やって知って、びっくりしましたよ。それに、くんが写っていて、大きくなったなあって驚きました」とおっしゃっていました。

また、駅伝当日、区間賞に輝いた生徒の周りに部員が集まって「あれ、つくってもらえるかな？」と話題になっていたそうです。「あれ」とは、ほかならぬ垂れ幕のことです。その生徒に「おめでとう！」の一言が伝えたくて、校長室に来てもらいました。そのとき、付き添ってきた友達が、垂れ幕を指して「あれは、ないんですか？」と言ったことに、“されど垂れ幕”になってきていることを実感しました。

きっと、関わっている一部の人にしか知られずにいたような生徒の努力が、垂れ幕やホームページの四中情報を通して、多くの人に認められ、四中生の励みになっていることをとてもうれしく思います。

ささやかな垂れ幕づくりではありますが、当人にとっての一層のやる気と、将来のこころの財産につながっていくことを信じるとともに、四中に通う生徒ばかりではなく、地域の方々も、この四中に誇りを感じてくれるようになったら、これほどうれしいことはありません。